

# 平成30年度 上田市教育行政に係る事務の点検及び評価報告書

## 上田市教育行政評価懇話会

第1回 令和元年6月27日(木) 午後3時30分～午後5時30分

第2回 令和元年7月 9日(火) 午前9時30分～午前11時30分

第3回 令和元年7月22日(月) 午後1時30分～午後3時00分

上田市教育委員会

# 目 次

I	趣旨		1
II	上田市教育行政評価懇話会		1
III	評価の方法		2
IV	評価の結果及び懇話会の提言内容等		
1	上田市教育支援プランの推進		
①	学力の定着・向上	学校教育課	3
②	英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	学校教育課	4
③	教員の働き方改革の推進	学校教育課	5
④	放課後児童対策の充実	学校教育課	6
⑤	食育の推進・充実に向けた環境の整備	教育総務課	7
⑥	小中学校のあり方の検討	教育総務課	8
2	安全・安心な教育環境の整備		
①	学校施設カルテに基づく個別施設長寿命化計画(素案)の作成	教育施設整備室	9
②	学校間の機能面での不均衡解消のための学校施設建設に係る標準モデルの検討	教育施設整備室	10
3	文化遺産の保護・継承・活用		
①	「上田市歴史文化基本構想」の策定と「日本遺産」への認定申請	生涯学習・文化財課	11
②	史跡等整備の推進と文化財の保護と活用	生涯学習・文化財課	12
③	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	市立博物館 生涯学習・文化財課	13
4	生涯学習の推進による地域の教育力の醸成		
①	地域と連携した学校を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	14
②	人権同和教育・啓発の推進	生涯学習・文化財課	15
③	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	生涯学習・文化財課	16
④	公民館事業の充実	中央公民館 生涯学習・文化財課	17
⑤	図書館サービスの充実	上田図書館 生涯学習・文化財課	18
5	生涯スポーツ活動の推進とスポーツ環境の整備		
①	スポーツ施設の整備	スポーツ推進課	19
②	生涯スポーツの振興と競技力の向上	スポーツ推進課	20
③	スポーツにかかわる人材育成とスポーツをささえる地域づくり (ラグビー競技普及啓発)	スポーツ推進課	21

## I 趣旨

平成20年4月1日に施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」において、各教育委員会は効果的な教育行政の推進を図り、住民への説明責任を果たしていくため、教育に関する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を毎年行うことになりました。

そのため、法改正の趣旨に鑑み、平成20年度から目標管理制度において設定した教育委員会の重点事業について、自己点検及び自己評価を行い、上田市教育行政評価懇話会において、有識者から提言をいただいています。これらの評価の結果や懇話会における委員からの意見は、今後の教育に関する事業の改善に役立てていきます。

## II 上田市教育行政評価懇話会

平成30年度重点事業の評価の結果等について、有識者からの意見を聞くため、本年度は、6月27日、7月9日、7月22日の3回にわたって上田市教育行政評価懇話会を開催しました。

なお、委員には、上田市の教育に携わった経験があり、専門的な観点からの意見を期待できる次の7人に就任を依頼しました。

(敬称略)

氏名	略歴	備考
酒井 弘幸	元学校教育課指導主事(常磐城ふれあい教室)、 元城下小学校長	座長
安達 永眞	小県上田教育会幹事、塩田西小学校学校評議員、 元南小学校長	副座長
荒井 貞雄	上田市スポーツ推進委員、民生児童委員	
早坂 淳	長野大学社会福祉学部社会福祉学科准教授、 上田市社会教育委員	
町田 龍一郎	筑波大学生命環境系特命教授、 上田市文化財保護審議会委員	
山浦 美幸	上田市行財政改革推進委員会委員、上田中央地域協 議会委員、元上田市社会教育委員	
山崎 順子	西部公民館運営審議会委員、元上田市教育委員	

### Ⅲ 評価の方法

平成30年度重点事業の年度末における目標の達成状況について、AからDまでの4段階による評価を行いました。

#### 【総合評価】

ランク	内 容
A	目標を上回る成果があった。
B	目標どおりの成果があった。
C	目標未達成の部分があった。
D	全ての目標が未達成であった。

### Ⅳ 評価の結果及び懇話会の提言内容等

平成30年度重点事業の評価の結果及びこれに対する懇話会の提言内容等は、事業評価シートに記載のとおりです。

# 平成30年度 事業評価シート

1-①

<b>事業名</b>	学力の定着・向上	<b>担当課</b>	学校教育課
------------	----------	------------	-------

<b>当初目標</b>	(1) 学力の定着・向上に向け、授業と関連づけた家庭学習を行う習慣づくりが重要であるため、その一助として、生活・学習ノート「紡ぐ」の有効活用を図ります。 ・全小中学校での活用開始 ・学力向上委員会における検証及びノートの仕様見直し (2) 特別支援学級のタブレットパソコンを使用した授業を推進します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1) ・小学校7校、中学校3校を抽出し年2回のアンケート調査実施	0	
	・市校長会、学力向上委員会にて活用事例を発表	0	
	・学力向上委員会小委員会による検証及びノート仕様検討	0	
	・平成31年度仕様のノートの印刷	2,447	
	(2) プリントなどを「音声読み上げ機能付きのテキスト」に 短時間で作成できるソフトの講習を市内6箇所で開催。	0	0
<b>目標の達成状況</b>	(1) 抽出校（小学校7校・中学校3校）からのアンケート調査では、ノートを有効活用した学級で「家庭学習時間増」「学校で家庭学習の計画を立てる」児童生徒が増えるなど変化が見られました。 学力向上委員会小委員会にてノートの検証及び次年度用ノートの仕様修正を行いました。（9月～11月：3回開催） (2) 市内6箇所（丸子中央小、中塩田小、南小、北小、一中、真田中）で、特別支援学級の教員を中心に、教材変換ソフトの講習を受け、児童生徒が授業で使用する資料やテストなどの作成に利用し、授業の理解度を深めることに活用しています。		

<b>総合評価</b>	<b>B</b>		
<b>今後の課題等</b>	(1) 第2期上田市教育支援プランに掲げる施策の推進、特に学力の定着・向上に向けた取組を推進していく必要があります。学習習慣を身に付ける家庭学習の充実を図るため、本事業の有効活用を広めていくなど継続して取り組む必要があります。 (2) 一部の教員のみが、ソフトの使用方法についての研修を受講しているだけなので、いかに広めていくかが課題です。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	①生活・学習ノート「紡ぐ」については、教員で構成される学力向上委員会により企画された取組であり、このような現場の動きを教育委員会として支援したことを評価します。学力の定着・向上に向けて様々な取組が考えられますが、教育委員会に対しては、引き続き、現場の主体的な取組を大切にすることを望みます。 ②生活・学習ノート「紡ぐ」の自己評価については、教育委員会と学校の役割が必ずしも明確でないと考えます。それぞれの役割を整理することで、成果や課題がはっきりし、より事業の評価・検証ができると考えます。 ③生活・学習ノート「紡ぐ」については、試行実施期間に判明した課題への対策を図ったことで、目標の達成状況にあるように少しずつ成果が出はじめていると考えます。今後も、児童生徒、保護者、教員の意見・要望の把握とそれに対する対策に努めることで、より効果的な取組となることを期待します。	
<b>今後の方針等</b>	<b>意見に対する考え方</b>	①教育委員会として、学力向上委員会の意見や取組が、「迫力ある授業」「よく分かる楽しい授業」に繋がるよう支援していきます。 ②③学力向上委員会や校長会などを通じ、この取組に対する児童生徒、保護者、教員の意見の把握に努めていきます。また、児童生徒を対象としたアンケートを実施しながら、家庭学習時間数の変化等を検証し、学力向上委員会とともに「紡ぐ」が有効活用できるよう仕様の修正や各校の取組紹介を行っていきます。	
<b>今後の課題等</b>	(1) ノートの活用状況、使用に関する要望等を学校から聴取し、更なる有効活用が図られるよう、全小中学校に対する有効活用例の発信、ノート作成委員会における協議や検討を行い、令和2年度の使用に向けより改良された「紡ぐ」の作成を進めます。 (2) 校内研修または、開発業者による研修などを継続していきます。		

# 平成30年度 事業評価シート

1-②

<b>事業名</b>	英語教科化への対応とコミュニケーション能力の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
------------	--------------------------	------------	-------

<b>当初目標</b>	小学校英語教科化に向けた取組の推進及び英語によるコミュニケーション能力の向上を図ります。 (1) 研修会、公開授業等による小学校教員の指導力向上 (2) 英語指導主事 (ALT) の小学校定期配置による生きた英語を通じてのコミュニケーション能力の向上		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	英語教育担当指導主事の配置		2,204
	小学校英語教科化推進委員会の開催 (3回)		0
	小学校英語教科化研修会の開催 (2回)		65
	小学校英語教科化推進委員会による公開授業の開催		0
	英語指導助手 (ALT) の配置		38,690
<b>目標の達成状況</b>	(1) 小学校教員の指導力向上 ・ 小学校英語教科化推進委員会の開催 (3回) ・ 小学校教員対象研修会開催 (8月：参加者40名、2月：参加者35人) ・ 公開授業の開催 (11月～2月：計12回) ・ 英語教育担当主事の全小学校訪問 ※研修会、公開授業、指導主事訪問を通じ指導力向上が図れた。 (2) 英語指導助手 (ALT) の小学校定期配置・訪問 ・ 小学校専属ALTを6名配置し、毎週定期的な小学校巡回を実施することで、生きた英語に触れる機会を創出した。		

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	2020年度からの小学校教科化に向け、先行実施期間を有効に活用し引き続き教員の指導力向上を図る必要があります。 また、英語が楽しいと考える児童生徒の育成及び英語によるコミュニケーション能力の向上に向け、学校の授業以外にも英語に触れる機会を創出していく必要があります。		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	①2020年度からの小学校英語教科化に向けて、先行実施に取り組んでいることを評価します。教育委員会に対しては、教育現場において、更に円滑な取組ができるように、小学校と中学校の連携についても研究されることを期待します。 ②英語教科化においては、教科としての英語に加え、児童が楽しく英語に触れられるよう工夫することで、英語によるコミュニケーション能力の充実が図られるよう、教育委員会としての取組が進められることを期待します。	
	<b>意見に対する考え方</b>	①英語教科化に向けた取組として、研修会や公開授業により小学校教員の指導力向上を図ってまいりました。また、英語教育担当指導主事が小学校向けの指導書を作成するとともに、全小学校を訪問しチームティーチングを行うなど授業の支援をしてまいりました。今後も、小学校から中学校へのスムーズな接続が行えるように努めていきます。 ②英語によるコミュニケーション能力の向上を図るため、ALTを小学校へ配置し、生きた英語での授業に加え、英語に触れる機会を増やし、英語が楽しいと考える児童生徒を育成していきます。	
<b>今後の方針等</b>	英語教科化推進委員会による協議、公開授業及び外部指導者による研修会の開催を通じ、引き続き教員の指導力向上を図ります。 ALTの小学校定期訪問を継続するとともに、ALTの指導力向上に向けた研修を学校教育課で行います。		

# 平成30年度 事業評価シート

1-③

事業名	教員の働き方改革の推進	担当課	学校教育課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	学校における働き方改革推進のため以下の新規事業を重点に取り組みます。 (1) 中学校部活動指導員制度の導入 (2) タイムカード等の導入と教員の勤務時間の把握と適正化		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	部活動指導員の導入 (3中学校に3人)		781
	パソコンソフトを使用した勤務時間管理		0
目標の達成状況	(1) 部活動指導員を3名配置し教員の負担軽減に努めました。(内1名は一身上の都合により12月退職) (2) エクセルを使用した出退勤管理ソフトの入ったパソコンを希望校(33校)に整備し、教職員の勤務時間の把握に努めました。(出退勤管理ソフトは教員が作成したものであり、パソコンは古い機種を再利用したため費用はかかっていない。パソコンを整備しなかった2校はすでにタイムレコーダー等を導入済み)		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	教員の負担軽減のために、部活動指導員の配置を増員したいが予算と人選が課題です。教職員の勤務時間管理については、ソフトの配置は完了したので、管理職(校長)は年間を通して全教員の勤務時間を把握し、働き方に関する意識改革を図っていく必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①教員の働き方改革に向けて、教員の勤務時間の把握と適正化を行うためには、タイムカードの活用に加え、根本的な業務の見直し等も検討する必要があると考えます。 ②教員の働き方改革が進められることで、市内の小中学校すべての授業で、質の高い授業が実現することを期待します。そのためには、引き続き部活動指導員の充実に取り組むとともに、多種多様な課題に取り組む教員の長時間勤務の要因を分析し、教員の勤務時間の適正化に向けて、さらなる取組を進めることが必要と考えます。	
	意見に対する考え方	①市教育委員会として、平成29年11月の県教委からの通知を受け「学校における働き方改革推進のための基本方針」を策定しました。この方針の中で、直ちに取り組むこととして、市教委主催の会議の簡素化、市教委からの調査の精選、スクールサポートスタッフの活用等を実施しております。 ②部活動指導員についても、人数の増員を図っていきたいと考えております。この他に中長期的に取り組むこととして、給食費の徴収方法の検討、統合型校務支援システムの導入、時間外の留守番電話による対応などにも取り組んでいきます。教員自身についても、タイムカード等で客観的に勤務時間を把握していただき、業務の効率化、分業化、協業化等を進めていきたいと考えています。	
今後の方針等	部活動指導員を市内中学校に各1名の配置とともに必要な予算の確保を目指します。教員の時間外労働が月45時間以内になるよう教育委員会と各学校で、業務改善に取り組み時間外勤務の縮減に努めます。		

# 平成30年度 事業評価シート

1-④

<b>事業名</b>	放課後児童対策の充実	<b>担当課</b>	学校教育課
------------	------------	------------	-------

<b>当初目標</b>	留守家庭対策を担う放課後児童クラブを利用する児童数は増加しており、その安定的な運営と児童の安全な施設利用を維持するため、国県の補助金を活用し、放課後児童支援員等の処遇改善(給料の増額)等を実施します。	
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>
	指定管理料への処遇改善費用の上乗せ	4,875
	受け入れ拡充スペースの整備	585
<b>目標の達成状況</b>	<p>(1) 職員数、就労形態(常勤又は非常勤)、勤続年数に応じて処遇改善額を決定し、平成30年12月に指定管理料に上乗せして支払いました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成28年度総額 3,549,100円(年額172,800円の職員が最高額)</li> <li>・平成29年度総額 4,417,700円(年額182,000円の職員が最高額)</li> <li>・平成30年度総額 4,874,300円(年額191,200円の職員が最高額)</li> </ul> <p>(2) 放課後児童クラブ分室を4月から2増(東部児童クラブ、中塩田児童クラブ)し、定員が60人増となりました。</p> <p>また、学童保育所どんぐり分室を移転し、定員を10人増としたほか、冷暖房機器を整備しました。</p>	

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	処遇改善を継続するためにも、国県の補助金以外の財源を検討する必要があります。増加傾向にある利用児童数に対応できる施設整備(場所・規模)を検討する必要があります。	
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	<p>①放課後児童対策のハード・ソフトの両面における環境整備に取り組んでいることを評価します。</p> <p>②留守家庭対策を担う放課後児童クラブにおいても、学力向上という視点を共有し、家庭学習の習慣化などを意識した取組が行われることを期待します。</p>
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>①放課後児童対策の環境整備に今後も取り組んでいきます。</p> <p>②放課後児童クラブにおいては、来館した後に宿題に取り組む時間を設けており、家庭学習の習慣化に向け、今後も継続していきます。</p>
<b>今後の方針等</b>	使用料の改正等を含めて財源の検討をします。小学校等関係機関と連携し、余裕教室を含め、施設の設置場所について検討します。	



# 平成30年度 事業評価シート

1-⑤

事業名	食育の推進・充実に向けた環境の整備	担当課	教育総務課
-----	-------------------	-----	-------

当初目標	安全安心な学校給食を安定的に提供するために、老朽化した調理施設の更新を行う必要があります。このため、新しい学校給食施設に係る建設用地の検討・選定を行います。さらに、「今後の学校給食運営方針」を踏まえた新しい学校給食施設に係る整備計画を作成します。	
具体的な取組	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>
	教育委員会による「今後の学校給食運営方針」の再検討	0
	・協議会における検討（9回）	
	・給食センター及び自校給食調理場の視察・職員との意見交換（4回）	
・市長と教育委員会の意見交換（2回）		
目標の達成状況	<p>土屋市長から平成27年の「今後の学校給食運営方針」について再検討を求められたことから、教育委員会として鋭意再検討を行いました。</p> <p>毎月開催される定例教育委員会に合わせた協議や学校給食施設の視察を行い、現場の栄養士、調理員との意見交換を行うなど慎重に再検討を進めました。</p> <p>その結果、老朽化の著しい第二学校給食センターに代わって給食を提供できる施設をできる限り早急に整備する必要があると考え、学校給食センターの統合を見直し、第二学校給食センター単独での整備を行うという判断に至りました。</p> <p>当初目標と異なり、施設整備の再検討を行いました。安全安心な学校給食の安定的な提供を第一に考え、教育委員会の総意で方針の一部変更を決定し、市長及び議会に報告することができました。</p>	

総合評価		B
今後の課題等	<p>施設の老朽化が進んでおり、第二学校給食センターでは、ボイラー設備、厨房機器の故障が多発しています。</p> <p>第二学校給食センターの移転改築後に第一学校給食センターの改築に着手する計画であるため、第一学校給食センターの老朽化対策が必要になります。また、第一学校給食センターにおける食物アレルギー対応食の提供開始については、改築後となります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>学校給食については、児童生徒に対する食育の推進とともに、安全安心であることが大切であると考えます。老朽化の著しい学校給食施設もありますが、修繕等の必要な対応を行い、安全な学校給食の提供が継続される必要があると考えます。また、新しい学校給食センターの建設については、計画に沿って着実に進められることを期待します。</p>
	意見に対する考え方	<p>学校給食には、適切な栄養の摂取、食に関する正しい知識を身に付けること、そして、何よりも安全であることなど、多くの役割が求められています。老朽化した施設については日々の点検に加え適切な時期に修繕や厨房機器の更新を行うことで、今後も安全安心な学校給食を安定的に児童生徒に提供していきます。また、新しい学校給食センターの早期改築に向けて、施設の仕様の検討などを計画的に進めていきます。</p>
今後の方針等	<p>できる限り早期に第二学校給食センターの移転改築に着手できるよう、建設候補地選定を進めます。</p> <p>建設候補地決定後、速やかに設計業者選定手続が行えるように、新しい施設の仕様、食物アレルギー対応に向けた検討を進めます。</p> <p>安全安心な学校給食を提供できるように、老朽施設・設備の点検及び修繕を行うとともに、第一学校給食センターについても可能な限り早期に更新できるよう努めます。</p>	

# 平成30年度 事業評価シート

1-⑥

事業名	小中学校のあり方の検討	担当課	教育総務課
-----	-------------	-----	-------

当初目標	<p>少子化に伴う学校の小規模化への対応、学校施設の老朽化による改築需要の増大など、教育を取り巻く諸課題に対応するため、平成29年度に設置した「上田市小中学校のあり方研究懇話会」からの提言書の趣旨を踏まえた、小中学校のあり方の検討を進めます。</p> <p>(1) 有識者による検討組織を設置し、ソフト・ハード両面からの検討を行います。</p> <p>(2) 2年間の策定期間により、今後の望ましい教育の方向性としての、小中学校のあり方に関する基本方針を策定します。</p>	
具体的な取組	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>
	「上田市小中学校のあり方検討委員会」の設置（委員：有識者12人）	0
	「上田市小中学校のあり方検討委員会」の開催（2回）	61
目標の達成状況	<p>1月に、学識経験者、保護者、地域、保育園、教育機関関係者などで構成する検討組織「上田市小中学校のあり方検討委員会」を設置しました。</p> <p>検討委員会を2回開催し、第1回は「上田市小中学校のあり方研究懇話会」からの提言書の内容について、第2回は提言書で提言いただいた主要な5点の柱のうち、「目指す子ども像」と「上田市としての特色ある教育」について意見交換を行いました。当初は5回程度検討委員会を開催する予定でしたが、委員の人選等に時間を要し、組織の立上げが遅れたことにより、2回の開催にとどまり、当初の予定より進捗が遅れています。</p>	

総合評価	C
------	---

今後の課題等	<p>次年度の基本方針策定に向け、精力的に検討を進め、早い段階から素案の作成に取り組む必要があります。また、基本方針の策定に当たっては、より幅広い市民の意見を反映させる方法を検討する必要があります。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>今後の小中学校のあり方という重要なテーマを扱う事業であり、子育て世帯を中心に市民の関心が高いものと考えます。このため、幅広い年代の意見の把握に努め、検討を進めることが必要と考えます。</p>
	意見に対する考え方	<p>幅広く市民の意見や考え方を確認しながら進めていくことは重要であると認識しております。市民への情報発信に留意するとともに、検討委員のご意見も伺いながら、進め方を検討していきます。</p>
今後の方針等	<p>基本方針の策定に向け具体的なスケジュールに基づき検討を進め、会議のほか、必要に応じて先進地視察や講演会なども取り入れた検討内容を工夫します。</p> <p>また、基本方針の素案の段階でパブリックコメント（意見公募）などの方法も検討しながら、市民意見の反映に努めます。</p>	

## 平成30年度 事業評価シート

2-①

事業名	学校施設カルテに基づく個別施設長寿命化計画(素案)の作成	担当課	教育施設整備室
-----	------------------------------	-----	---------

当初目標	<p>急激に人口が増加した昭和40年代・50年代に建てられた学校施設が今後耐用年数を迎えるに当たり、将来の人口減を見据える中で、計画的な施設整備を実施するための計画作成を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の過去5年間の営繕実績集計</li> <li>・特殊建築物等定期点検結果による施設の現状把握</li> <li>・学校施設カルテに基づく個別施設計画(素案)の作成</li> </ul>		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	学校施設の営繕実施状況を最新(H25-29)の状態に整備	0	
	特殊建築物等定期点検結果(H28-30)の整理	0	
目標の達成状況	<p>施設長寿命化計画策定に向け、素案の作成までには至りませんでした。昨年度作成した施設カルテの情報を最新の状態に更新するとともに、個別施設計画作成に必要となる、施設の外觀チェックに代わる手法として採用できることとなった特殊建築物等定期点検の直近3年間(平成28年度～30年度)の点検結果を整理しました。</p>		

総合評価	C		
今後の課題等	<p>文部科学省からの通達により、各市町村が策定する施設の総合管理計画(上田市では「公共施設マネジメント基本方針」)に基づき、令和2年度末までに個別施設の長寿命化計画を策定するよう要請されています。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>施設の長寿命化計画の策定においては、学校施設の統廃合の視点も考慮する必要があると考えます。引き続き、学校施設カルテの作成を行い、計画的な学校施設整備を実施するために、個別施設長寿命化計画の策定が進められることを期待します。</p>	
上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え	<p>学校施設における個別施設計画(長寿命化計画)は、今後、施設整備における国庫補助金採択への影響も見込まれているため、当初の目標である令和2年度末までに策定できるよう努めていきます。</p> <p>なお、施設の統廃合については、計画策定後も定期的な計画の見直しを行う中で、方向性が定まった施設について、適時反映していきます。</p>	
今後の方針等	<p>令和2年度末までに個別施設計画が作成できるよう、計画的に取り組みを進めます。</p>		

## 平成30年度 事業評価シート

2-②

<b>事業名</b>	学校間の機能面での不均衡解消のための学校施設建設に係る標準モデルの検討	<b>担当課</b>	教育施設整備室
------------	-------------------------------------	------------	---------

<b>当初目標</b>	<p>令和2年度からの新学習指導要領の開始に伴う小学校高学年からの英語教育の開始と、今後の少子化の進行が明らかな状況下において、時代に即した学校施設整備を行うことが重要であることから、今後の施設改築に向けた、学校施設に求められる標準的な機能・設備等を定めた標準モデル作成のための条件整理を行います。</p>		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	現状における学校施設の課題整理	0	
	技術的見地からの施設に必要な機能等の検討	0	
<b>目標の達成状況</b>	<p>今後の標準モデルとなるよう、施設の構造、材質、必要な設備等について、庁内関係課と継続的に協議を重ね、一定の方向性を確認しました。</p>		

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	<p>今後予定している改築事業の基本設計業務において、標準モデルの具現化を図る必要があります。</p>		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	<p>市内の各学校において、子どもたちが同じ学習環境で学ぶことは、非常に大切な観点です。今後の施設整備においての規範となるべき「標準モデル」の作成については、今後100年の計となるものとなるよう期待します。</p>	
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>標準モデルの策定に当たっては、建物の構造、面積、教室配置、設備等、子どもたちの学習環境の均質化に留意することはもちろんのこと、将来の施設維持管理において安価で済む材料等を積極的に活用するなどの視点も重要であると考えます。 次年度以降に予定している学校施設の改築事業に合わせ、標準モデルの具現化を図っていきます。</p>	
<b>今後の方針等</b>	<p>設計担当課との連携強化を図り、早い段階で基本的な考え方をまとめ、基本・実施設計等に標準モデルの考え方を取り入れていきます。</p>		

## 平成30年度 事業評価シート

3-①

事業名	「上田市歴史文化基本構想」の策定と「日本遺産」への認定申請	担当課	生涯学習・文化財課
-----	-------------------------------	-----	-----------

当初目標	市内の文化財を指定の有無に関わりなく幅広くとらえて、総合的に保存・活用するためのマスタープランとなる「上田市歴史文化基本構想」を策定するとともに、「日本遺産」の認定に向けた取組を進めます。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	上田市歴史文化基本構想策定委員会の開催 (3回)		7,040
	「上田市歴史文化基本構想」の策定		
	市内の古民家60軒、仏像420体の調査と調査カードの作成		159
日本遺産庁内検討会議の開催 (7回) 及び認定申請			
目標の達成状況	<p>「上田市歴史文化基本構想」の策定は、基本構想策定委員会を2回 (5/29・10/29) 開催して構想案の検討を行い、3月に答申を受けて構想を策定しました。また、市内の古民家60件と仏像420体の調査を行い、平成28年度からの3か年で、古民家300件、仏像1,427体の悉皆調査を完了しました。</p> <p>日本遺産の認定申請は、庁内検討会議を7回開催して申請内容等の検討を重ね、「蚕都」の文化財を背景にした「映画のまち」を主軸としたストーリーを作成し、1月末に文化庁に認定申請をしましたが、今年度は認定に至りませんでした。</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>「歴史文化基本構想」は、文化財保護行政のマスタープランとなるものですが、文化財保護法の改定に伴い、今後更に発展させた「文化財保存活用地域計画」を策定する必要があります。悉皆調査の結果は今後の文化財指定や登録のデータとしますが、市民へのデータ提供の方法について検討が必要です。</p> <p>「日本遺産」の認定は、来年度が最後の機会となるため、今回の申請内容を検証し、完成度を高める必要があります。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①平成28年から時間をかけ積み重ねてきた文化財の悉皆調査が完了するとともに、「上田市歴史文化基本構想」の策定に至ったことを評価します。</p> <p>②悉皆調査において、多くの関係者の苦勞のもとに貴重なデータが整理されたと考えます。データの有効活用という点から市民へも適切に情報提供がなされることを期待します。</p> <p>③日本遺産の認定については、人を呼び寄せるという観光要素もあることから、観光部署をはじめとした他部署との協働が必要と考えます。また、日本遺産の認定申請内容については、関係する職員以外の視点も加えることにより、更に磨きをかけ、より魅力的な内容となることを期待します。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①文化財保護法の改正により「歴史文化基本構想」をもとに、新たに「文化財保存活用地域計画」を策定する必要があります。「歴史文化基本構想」の周知を図りながら、「文化財保存活用地域計画」の策定に向けた取組を進めます。</p> <p>②「歴史文化基本構想」の策定に併せて実施した古民家と仏像の悉皆調査では、数多くの新知見も含め情報が整理されました。整理されたデータについては、今後行う「歴史文化基本構想」説明会や美術館と連携して開催する展覧会等で広く提供していきます。</p> <p>③「日本遺産」については、引き続き庁内各部署と連携しながら検討を進めるとともに、大学生や外国人など多様な立場の皆様の意見を伺いながら内容の磨き上げを行っていきます。</p>	
今後の方針等	<p>文化財所有者や地域住民の皆様に「歴史文化基本構想」を理解していただくために、公民館単位で説明会を開催します。また、「文化財保存活用地域計画」については、文化庁や庁内関係課所とも協議しながら策定に向けた準備を進めます。</p> <p>「日本遺産」は、来年度の最後の認定機会を目指し、再申請の準備を進めます。</p>		

## 平成30年度 事業評価シート

3-②

事業名	史跡等整備の推進と文化財の保護と活用	担当課	生涯学習・文化財課
-----	--------------------	-----	-----------

当初目標	地域の歴史と文化を世代を超えて継承していくために、文化財への関心を高め、それらの保護と活用を推進します。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	市内遺跡・上田城跡発掘調査及び報告書作成		2,747
	信濃国分寺跡公有化事業 (1件・249.15㎡)		27,240
	県宝旧倉沢家住宅主屋保存修理工事 (1月～3月)		1,331
	「文化財de文化祭」常楽寺本堂・旧宣教師館で開催		500
目標の達成状況	<p>(1) 文化財保護審議会を1回 (9/27) 開催しました。</p> <p>(2) 上田城跡二の丸西側土塁の発掘調査、太郎山石切り場跡の調査、信濃国分寺跡の公有化事業 (1件・249.15㎡) を行いました。</p> <p>(3) 開発事業に伴う立会調査 (160件)、試掘調査 (13件) を行いました。</p> <p>(4) ・旧倉沢家住宅の主屋外壁ほかの保存修理工事を行いました。          ・指定文化財保護事業 (6件)、無形民俗文化財等後継者育成事業 (16団体) への補助金を交付しました。          ・文化財de文化祭を2回開催しました。          ○第1回 (9/8) 常楽寺本堂 参加者約100人          ○第2回 (12/15) 旧宣教師館 参加者約100人</p>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	<p>国の史跡上田城跡と信濃国分寺跡の整備事業については、「史跡上田城跡保存管理計画」、「史跡上田城跡整備基本計画」及び「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」に基づいて着実に推進していく必要があります。</p> <p>多くの文化財を有する上田市として、その歴史と文化遺産の情報を戦略的に発信し、その価値を共有化するとともに、活用し続けるための施策が必要です。</p>		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	<p>①市民が身近に文化財に触れる機会として、「文化財de文化祭」などのイベントを企画し、地域の歴史と文化の世代を超えた継承に向けて取り組んでいることを評価します。</p> <p>②「文化財de文化祭」のような取組を進めるとともに、行政にしかできない発掘調査や報告書の作成などをしっかり行うことが大切と考えます。地道な取組ですが、それが数十年後の上田市の観光資源になる可能性もあると考えます。</p>	
	意見に対する考え方	<p>①「文化財de文化祭」事業は、これまであまり文化財に親しむ機会のなかった皆様にも地域の文化財の魅力を知っていただく契機となるよう、今後も新鮮な魅力が伝えられる取組を企画してまいります。</p> <p>②地域の歴史文化に関する調査や資料収集を博物館や公文書館等と連携しながら、今後も継続的に実施していきます。</p>	
今後の方針等	<p>史跡整備については、新たに専門家会議を組織して指導や助言を得るとともに、「史跡信濃国分寺跡保存整備基本計画」については策定から15年を経過することから、内容の見直しを進めます。</p> <p>史跡や建造物等の保存に取り組むとともに、文化財de文化祭等の機会を通じて文化財の公開・活用を推進します。</p>		

## 平成30年度 事業評価シート

3-③

<b>事業名</b>	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を知る機会の創出	<b>担当課</b>	市立博物館 生涯学習・文化財課
------------	----------------------------	------------	--------------------

<b>当初目標</b>	郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等を子どもたちや市民に知っていただき、郷土への理解と愛着を深めていく機会を創出するため、次の事業を実施します。 (1) 郷土の歴史・文化や先人・偉人の業績をテーマとした展覧会・講座等の開催 (2) 郷土の文化・歴史や偉人の業績に係る資料の収集・調査と研究		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>		<b>事業費 (千円)</b>
	市立博物館…企画展の開催（4回）、史跡めぐり（3回）、講座等の開催（11回）		729
	国分寺資料館…企画展 3回、「親子de縄文体験塾」3回、 「学校出張歴史体験教室」 7校、「市民講座」3回、 「奈良時代を学ぶ会」10回、「万葉講座」3回、「資料館講座」3回		481
<b>目標の達成状況</b>	<p>(1) 郷土の歴史、文化、先人・偉人の業績等をテーマとした企画展及び講座等を開催しました。 市立博物館では、上田城三の丸発掘調査、上田城下町造営に関する「金井家文書」、俳人・加舎白雄、上田のひな人形をテーマとした企画展を開催しました。また、古文書講座や公開講座、県内外の史跡めぐりなどを実施しました。信濃国分寺資料館では、上田地域の古代の文字や信仰をテーマとした企画展を開催し、あわせて講座や教室などを実施しました。</p> <p>(2) 砥石城合戦に係る絵巻の購入や、収蔵古文書の目録作りを推進しました。</p>		

<b>総合評価</b>		<b>B</b>
<b>今後の課題等</b>	市民が郷土の歴史や文化等についての理解及び愛着を深めていくための機会を、展示をはじめとした様々な形で提供していく必要があります。 また、観光客に対しても、分かりやすい展示、企画等を行うことが重要です。	
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	<p>①市民に郷土の歴史や文化を知る機会を創り、後世につなげていく大事な取組であると考えます。必ずしも目立つ事業ではありませんが、引き続き一つずつ着実に取り組まれることを期待します。</p> <p>②企画展等の広報については工夫を重ねているようですが、より多くの市民に知ってもらえるよう、情報発信の方法を更に研究されることを期待します。</p> <p>③郷土の歴史文化を大切に守ることが、郷土への愛着や住みたいという思いにつながると考えます。以前、教育委員会が作成した『ふるさと上田人物伝』もこのような取組の1つと考えます。これからも有効に活用されることを期待します。</p>
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>①市民の方々特に次世代の「郷土への理解と愛着」を喚起するために、様々な形での歴史や文化を知る機会を創出し、着実に発信していきます。</p> <p>②上田市観光の拠点として多くの方々に来館いただいておりますが、特に企画展について、紙ベース・ネット情報等多様な手段により、確実に伝わる広報の工夫を重ねていきます。</p> <p>③住みたいという思いの喚起には、全国発信はもちろん、未来を担う子どもたちの「郷土への関心の創出」が大切です。人物伝を活かしたパネル展示も含め、分かり易い情報発信を目指します。</p>
<b>今後の方針等</b>	市立博物館及び信濃国分寺資料館において、企画展、常設展の展示替え、市民向けの各種講座、親子で学べる体験型教室、学校へ出向いての子ども向け教室などの各種事業を継続的に実施します。 また、観光で訪れる方にも魅力ある展示の充実を図っていきます。	

## 平成30年度 事業評価シート

4-①

<b>事業名</b>	地域と連携した学校を支援する取組の充実	<b>担当課</b>	生涯学習・文化財課 学校教育課
------------	---------------------	------------	--------------------

<b>当初目標</b>	地域とともにある学校づくりの取組が、学校の実情や地域の特性を生かし持続可能なものとなるよう、次の事業を進めます。 (1) 地域とともにある学校づくりの取組の周知、広報／ホームページの整備、周知チラシ等の配布 (2) 統括コーディネーターを核としたコーディネーター及び、ボランティアの育成とネットワークづくり／研修会・情報交換会等の開催	
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>
	統括コーディネーター等が、市内全小中学校の訪問調査を実施	0
	ハンドブック（ボランティア用を2,000部、コーディネーター用を500部）を印刷	268
	広報うえだ（2/1号）に記事掲載	0
	ボランティア活動保険に加入（350円×1,343人）	470
	研修会（2回）、情報交換会（2回）、視察（1回）を実施	30
<b>目標の達成状況</b>	(1) コミュニティスクールの周知、広報 ・ 広報うえだ・行政チャンネル等で、周知を図りました。 ・ 学校支援コーディネーターハンドブックを作成しました。 (2) コーディネーター・ボランティアの育成、ネットワーク作りの推進 ・ 統括コーディネーターがコーディネーターと共に学校を訪問しました（35回）。 また、単独でも訪問しました（84回） ・ 研修会を2回実施しました（7/3西小：参加者43人、9/1丸子：参加者42人） ・ 先進地視察を実施しました（2/20横浜市：参加者17人） ・ 情報交換会を2回開催しました（7/3西小：参加者43人、9/1丸子：参加者42人）	

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	学校の実情や地域の特徴を生かしながら継続した取組となるよう、持続可能な体制を整備していく必要があります。 (1) 学校・地域ごとで取組状況に差があり、また、ボランティア等の固定化・高齢化も深刻な状況です。 (2) コーディネーター及び、ボランティアの育成、ネットワーク作りの充実がますます重要です。	
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	①長野県内の公立学校に関するコミュニティスクールの調査研究において、統括コーディネーターを配置している地域は、配置していない地域に比べ学校長の成果認識が高い傾向にあるとの調査結果があります。県内でも先進的に統括コーディネーターを配置している上田市の取組について評価します。更に各学校の特色を生かした、よりきめ細やかな対応を可能とするため、また、学校数、市域を踏まえ、統括コーディネーターの増員が必要と考えます。 ②コミュニティスクールについては、関係者の認識を「地域が学校を支援する」から、「地域と学校が対等な立場で連携・協働していく」に変えていくことで、より持続可能な仕組みとなることを期待します。
<b>意見に対する考え方</b>	①上田市では現在、生涯学習・文化財課に1名の統括コーディネーターを配置しています。今後更に各学校の特色を生かした、よりきめ細やかな対応を可能とするため、公民館職員が管轄する地域の総括的なコーディネートを担い、学校毎のコーディネーターとの情報共有や支援を行える体制づくりを進めます。 ②コミュニティスクールについては、現在、市内全ての小中学校に設置されている学校運営（協議）会の組織を充実し、学校・家庭・地域住民・行政の関係者がともに知恵を寄せ合い、子どもをまん中に、地域と学校が「双方向の協働活動」として持続可能な仕組みづくりとなるよう進めていきます。	
<b>今後の方針等</b>	上田市のコミュニティスクールを、地域と学校が連携・協働していく取組にするための検討をしていきます。 (1) 幅広い地域住民や団体等に参画を呼び掛ける手段として、ホームページを整備するなど、活動の見える化を進めます。 (2) 研修会や先進地視察での学びを生かし、コーディネーター・ボランティア等のスキルと活動の底上げを図ります。また、情報交換会を行う中で人材発掘、地域学校協働本部の形成につなげます。あわせて、学校運営委員会の組織の充実を図ります。	



## 平成30年度 事業評価シート

4-②

事業名	人権同和教育・啓発の推進	担当課	生涯学習・文化財課
-----	--------------	-----	-----------

当初目標	人権施策基本方針に基づいて、学校、家庭、地域、企業、職員に対する人権同和教育・啓発を推進します。また、市民一人一人の人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に現れるよう上田市人権啓発推進委員会や上田市企業人権教育連絡会で研修会等（数値目標 参加者2,700人）を開催し、市民の人権意識の更なる向上を図ります。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	学校人権同和教育		4,505
	地域人権同和教育		4,673
	社会教育団体等人権同和教育の推進		295
	企業人権同和教育の推進		200
目標の達成状況	上田市人権啓発推進委員会においては、10月に姜尚中氏を講師としてお迎えし、「人権を考える市民のつどい」を開催しました。多くの方に参加いただき、「人権や平等についての意識が高まった。」等のご意見をいただき、人権について考える良い機会となりました。また、本年2月には、西部公民館を会場に「人権フェスティバル」を開催し、人権作品の表彰や作品発表、春風亭鹿の子さんによる講演会を開催し多くの方にご来場いただきました。「上田市企業人権教育連絡会」においては、「新人研修」や「役員研修」等を行い、企業人権の啓発に努めました。 その結果、これらの講演会、研修会の参加者は2,903人となり、目標の2,700人以上の参加を達成することができました。		

総合評価		B
今後の課題等	各種講演会、研修会において、参加者が求めているテーマや講師の把握が難しく、選定に苦慮しています。また、多くの方に参加していただける工夫が必要であると考えます。市民一人一人の人権が尊重され、日常生活の中で人権に配慮した具体的な態度や行動に移せるような、有意義な研修会等を企画・実施し、人権同和教育と啓発を一步一步着実に推進していく必要があります。	
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①人権に対する正しい知識をもち、理解することは、心豊かに安心して暮らしていくためにも大変重要なことであると考えます。学校、家庭、地域、企業において、それぞれ積極的な取組が行われていることを評価します。 ②人権に関する問題は時代とともに変化し多様化していますが、この点も踏まえ、今後も市民への人権同和教育と啓発に取り組まれることを期待します。
上田市教育行政評価懇話会	意見に対する考え方	①学校や家庭、地域、企業などのさまざまな日常の場で態度や行動において人権尊重の精神が発揮できるよう引き続き教育と啓発に努めていきます。 ②人権課題が多様化している中、市民の人権に関する正しい理解と認識を深めるため、また人権意識を高めていくために今後も人権同和教育・啓発の推進に取り組んでいきます。
今後の方針等	市民意識調査（29年度実施）の結果からも講演会や研修会の開催は、有効であるとの結果が出ています。講演会、研修会を人権同和教育、啓発活動の中心に置き推進していきます。そのためには、アンケート等をとるなどして、参加者の求めている人権課題や講師の把握に努めます。また、講演会、研修会の広報を積極的に行っていきます。	

# 平成30年度 事業評価シート

4-③

事業名	青少年の健やかな成長を支援する取組の充実	担当課	生涯学習・文化財課
-----	----------------------	-----	-----------

当初目標	子どもの成長に重要な体験活動や集団遊びに触れる機会が減少傾向にあります。体験活動補助金の交付(60育成会)を行い地域での体験活動の促進と、モデル的野外体験活動を行いながら(3回)、野外活動の機会提供を図ります。 また、健全育成事業として、インターネット・スマホ適正利用啓発を進めるとともに(講演会1回、チラシ発行16,000部)、社会の変化に対応した補導委員会の組織強化を検討していきます。		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	子ども会育成連絡協議会との連携による野外体験活動の促進		781
	情報モラル研修会(長野県生涯学習推進センターと共催)		0
	インターネット・スマホ適正利用啓発リーフレット作成・配布		132
	補導委員の選出方法の見直しと組織改革に向けた協議		0
目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふるさとキャンプin武石 参加者 小学生34人、中高生スタッフ13人</li> <li>・アウトドア体験実践教室 参加者 10人</li> <li>・冬の自然体験活動 参加者 13人</li> <li>・体験活動支援事業補助金の交付 66団体</li> <li>・情報モラル研修会 参加者 136人</li> <li>・ネット・スマホ適正利用啓発リーフレットの発行・配布 20,000部</li> <li>・少年補導委員の選出区分を自治会単位から地区連単位に変更 (少年補導委員数:201名→135名)</li> </ul>		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	外遊びをする子どもたちが減少傾向にあるといわれる中、「生きる力」の獲得にもつながる野外体験の楽しさ・重要性を、子ども達や保護者に向けて啓発することが求められています。 インターネット・スマホ適正利用の重要性を子どもたちや保護者に効果的に伝え、浸透させる方策を検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	①野外体験モデル事業などを通して、子どもたちや保護者が野外体験の楽しさ・重要性を知ることができる機会を創出していることを評価します。 ②野外体験活動については、育成会における取組に加え、各公民館とも連携し、多くの人が体験事業に参加できるよう取り組まれることを期待します。	
	意見に対する考え方	①今後も子どもの体験活動の大切さを伝えるとともに、モデル的な取組を進めていきます。 ②これまでの育成会における活動だけでなく、各公民館等の体験活動を促進することも有効な取組と捉え、活動を支援する大人が「体験活動の教育的効果」を共有できる研修等の開催や、体験の場所やプログラムの事例等の情報提供等について検討していきます。	
今後の方針等	引き続き発信力のある野外体験モデル事業の実施及び、育成会を通じた地域での体験活動の開催とともに、各公民館での体験活動の支援により、体験活動の大切さについて伝えていきます。 子どもたちの情報モラル、メディアリテラシーに関しては、関係課や関係機関との連携をこれまで以上に深め、広がりのある啓発活動へと展開させていきます。		

## 平成30年度 事業評価シート

4-④

<b>事業名</b>	公民館事業の充実	<b>担当課</b>	中央公民館 生涯学習・文化財課
------------	----------	------------	--------------------

<b>当初目標</b>	高齢者の学びの拡充、公民館事業の充実により、地域の教育力を高めると共に、100周年を迎える「児童自由画教育運動」、「農民美術運動」、「上田自由大学運動」の周知・発信により、市民の自発的な学習運動を促進する機会を提供します。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	(1)各公民館の情報共有（館長会12回）及び、他市の状況調査	0	
	(2)館長会・主事会（各12回）における、各館の特徴的な取組等の情報共有	0	
	(3)山本鼎氏らをテーマにした講演会、山本鼎関連のパネル展の開催	70	
<b>目標の達成状況</b>	<p>(1) 各公民館同士（館長会、主事会）の情報共有を図り、高齢者の学びに関する公民館事業の充実について検討しました。</p> <p>(2) 各館で実施している特徴的な取組について情報共有を図り、地域の教育力がより高まるような事業につなげる素地をつくることができました。</p> <p>(3) 中央地区の「青少年育成市民のつどい」において、無言館 館主 窪島誠一郎氏に山本鼎氏らをテーマに講演いただき、併せて「神川・山本鼎の会」と共同で山本鼎関連のパネル展を開催しました。</p>		

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	<p>(1) 人生100年時代に向けたシニア世代の学びについて、県内他市の情報収集は行いましたが、内容の分析と今後どのように事業に反映させていくか、更なる検討が必要です。</p> <p>(2) 各公民館で実施している事業の情報共有を図る中で、地域資源（自然、歴史、人等）の有効活用を図っていく新たな課題が見つかりました。</p> <p>(3) 一部の啓発事業は実施しましたが、社会教育機関と更なる連携を図る必要があります。</p>		
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<b>委員からの意見</b>	<p>① 誰もが生涯にわたって学び成長できるように、各地区公民館において、さまざまな公民館事業が展開されていることを評価します。これに加えて、各分館における主体的な活動が行えるような環境づくりについても研究されることを期待します。</p> <p>② 公民館事業の充実に向けて、数値化は難しいものの、より能動的に公民館事業に参加する住民を育て増やしていくという視点も大切であると考えます。</p>	
	<b>意見に対する考え方</b>	<p>① 市内の各公民館には、専門の研修を受け、経験を積んだ職員が配置されており、分館活動に関するマニュアルも用意されているため、各分館の主体的な活動をサポートするよう適切なアドバイスを行っていきます。</p> <p>② 時代の変遷に応じて、住民が公民館に求める「学び」の種類・ニーズも変わってきています。より多くの人々が集う生涯学習施設とするため、これまで以上に様々な学びの機会を提供し、主体的な学習の場となるよう努めます。</p>	
<b>今後の方針等</b>	<p>(1) 収集した県内他市の情報分析を行い、上田市の課題と照らしあわせて改善を行うなど、更なる事業の拡充を図ります。</p> <p>(2) 地域の資源（自然、歴史、人等）を生かし、自然・社会体験の機会を子ども達に提供するなどの方法により、公民館事業の充実を図ります。</p> <p>(3) 上田自由大学運動等の百周年記念事業の実施に向け、社会教育機関と連携を行うと共に、地域の偉人の顕彰事業を行います。</p>		

## 平成30年度 事業評価シート

4-⑤

<b>事業名</b>	図書館サービスの充実	<b>担当課</b>	上田図書館 生涯学習・文化財課
------------	------------	------------	--------------------

<b>当初目標</b>	上田市立図書館の資料収集基本方針及び除籍基準を検討します。 各館の未整理資料の目録作成と資料登録及び情報発信による資料の活用を図ります。		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費 (千円)</b>	
	資料収集基本方針及び除籍基準の制定		0
	各種研修会への積極的な参加		28
	貴重資料の整理		1,697
<b>目標の達成状況</b>	館長次長会を12回開催し、資料収集基本方針及び除籍基準を策定しました。 また、県立図書館・文科省・文化庁等の主催による研修会に参加し、スキルアップを図りました。 各館所蔵の未整理資料の目録作成や、資料登録などの整理に努めました。		

<b>総合評価</b>	<b>B</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	図書館基本構想に基づく上田図書館の施設整備や、中央図書館化と地域図書館の役割等については今後検討する必要があります。 また、図書館サービスの充実を図るうえで、子どもの読書活動の推進体制の構築は重要であり、新たな推進計画を策定する必要があります。		
<b>委員からの意見</b>	関係者で検討を重ね、資料収集基本方針及び除籍基準を策定したことを評価します。さらに、将来的な図書館の改築に向けて、上田市の図書館をどうしたいのかという視点で、図書館サービスの指針となるものを策定することを期待します。このような指針があることで、貸出数、入館者数では評価できない図書館事業を進めることができると考えます。		
<b>意見に対する考え方</b>	平成29年度に策定した第2次上田市図書館基本構想においては、5つの基本目標を定めています。その中の基本目標⑤として「積極的なサービスを提供する図書館」を掲げており、その一つとして、利用者にとって必要とされる図書館であるために、社会動向を常に把握し、幅広く書籍、資料、情報の収集と保存及び適正な資料構成を図ることとしており、それを推進するため収集基本方針及び除籍基準を策定しました。 また、貸出しサービスの更なる向上を務めることはもちろんですが、レファレンス（調査相談）を重要な図書館サービスと位置づけ、その利用を促進するような体制と環境整備に努めることとしています。 今後も、図書館基本構想で掲げている基本理念「地域の身近な情報拠点として、くらしと学びに役立つ図書館」や5つの基本目標に基づいた取組を進めていきます。		
<b>今後の方針等</b>	図書館サービスの充実を図るため、平成26年に策定した「上田市子ども読書活動推進計画」を見直し、国が平成30年4月に定めた「第4次基本計画」を基本とした、新たな推進計画の策定に向けて、図書館協議会に諮問し協議していきます。		

## 平成30年度 事業評価シート

5-①

事業名	スポーツ施設の整備	担当課	スポーツ推進課
-----	-----------	-----	---------

当初目標	(1) スポーツ推進審議会からの答申を基に計画を策定します。 (2) スポーツ施設整備計画を基に、また長野国体の開催時期、有利な起債や補助金等の活用を踏まえ検討を進めます。		
具体的な取組	実施状況	事業費 (千円)	
	上田市スポーツ施設整備計画の策定	0	
	上田市スポーツ施設整備基本構想・整備計画書の冊子作成	638	
	テニスコート整備に係る候補地の選定及び財源検討	0	
目標の達成状況	上田市スポーツ施設整備計画を策定し、現在、関連部局との連携のもと、計画に基づいた各種整備の取組を始めています。 (1) スポーツ推進審議会からの答申を基に、5月に上田市スポーツ施設整備計画を策定しました。併せて、議会6月定例会全員協議会において説明を行いました。(中間報告時に完了) また、スポーツ施設整備基本構想及び整備計画を冊子にまとめ、関係部署等へ配布し周知を図りました。 (2) スポーツ施設整備計画で示した、新テニスコート及び新総合体育館の整備について、庁内関係課との協議を行い、建設場所や財源等について検討を行いました。		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	新テニスコートや新総合体育館の整備に当たり、建設候補地の選定及び有利な補助金や起債等の財源の確保が求められます。また、スポーツ施設整備計画に基づく事業等は、新設された教育施設整備室が担うことから、連携を図り事業を進めることが必要です。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	当初目標どおり、スポーツ施設整備計画が策定されたことを評価します。 テニスコート及び体育館については、建設場所、財源等の課題はあるようですが、教育施設整備室をはじめとする庁内関係課と連携し、着実に事業が進むことを期待します。	
	意見に対する考え方	新テニスコートの整備につきましては、現在候補地の選定作業を進めており、併せて庁内関係課、県等と情報共有を図りながら、財源の確保に向け取り組んでいます。 新総合体育館の整備につきましては、新テニスコートの整備後、本格的に着手することになりますが、引続き関係課と連携を図りながら事業を進めていきます。	
今後の方針等	施設整備に必要な財源確保に当たり、庁内関係課及び国・県の担当部署との連携を図りながら、有利な補助金等の確保に努めます。 スポーツ施設建設候補地の選定に当たり、地元自治会や地権者、関係者等との協議を行います。 教育施設整備室及び庁内関係課との調整会議を開催し、スポーツ施設整備事業を進めます。		

## 平成30年度 事業評価シート

5-②

事業名	生涯スポーツの振興と競技力の向上	担当課	スポーツ推進課
-----	------------------	-----	---------

当初目標	(1) 各種スポーツ事業【20回】 「夢の教室」事業【10校】 姉妹都市等交流事業【2回】 (2) 市内総合型地域スポーツクラブによる連携事業【2回】 (3) 全国大会等出場者支援【30件】		
具体的な取組	実施状況		事業費 (千円)
	各種スポーツ事業（大会、教室等）		6,365
	こころのプロジェクト「夢の教室」事業		2,190
	総合型地域スポーツクラブ連携事業		279
	全国大会等出場者支援（出場奨励金の交付）		1,135
目標の達成状況	各種取組により生涯・競技スポーツの一層の推進を図りました。 中でも昨年度発足した総合型地域スポーツクラブ連絡協議会が活発化し、身近なスポーツ機会の充実に寄与しました。 (1) 各種スポーツ事業【21回】 上田古戦場ハーフマラソン等 「夢の教室」事業【10校】 計20クラス 姉妹都市等交流事業【2回】 日中友好中学生卓球交流大会等 (2) 市内総合型地域スポーツクラブによる連携事業【13回】 あたま・からだ健康フェア2回 モールウォーキング11回 (3) 全国大会等出場者支援【48件】 国際大会、全国大会		

総合評価	B
------	---

今後の課題等	現状において、スポーツ振興計画に位置づける「みる」スポーツの機会が不足していることから、今後この充実が必要なほか、2020年の東京パラリンピックや2027年の全国障害者スポーツ大会の開催を見据え、障がい者スポーツとの関わりについて方針を検討する必要があります。		
上田市教育行政評価懇話会	委員からの意見	誰もがいつまでも気軽にスポーツに親しめるまちづくりをめざした取組の一つとして、昨年からはじまった総合型地域スポーツクラブによる連携事業がより活発に行われたことを評価します。 今後もそれぞれのスポーツクラブの良さを生かしながら、市民の体力づくりの一翼を担う取組が続けられることを期待します。	
	意見に対する考え方	総合型地域スポーツクラブ間の相互連携と資質向上のため発足した連絡協議会では、市内の商業施設などでPR活動を含めたスポーツイベントや、広報うえだでの事業紹介など、これまで数多くの連携事業を行ってきました。 総合型地域スポーツクラブはスポーツ基本法においても行政が支援することと位置付けられていることから、今後も事業運営に対する協力のほか、各クラブの自主的な運営が可能となるよう、国・県などの補助金等も活用しながら支援を行っていきます。	
今後の方針等	「みる」スポーツについては、来年度から市内でVリーグの試合が展開されることから、この開催についてPRや会場確保の面から支援を行います。 障がい者スポーツについては、関係部署のほか、既に取組を始めている市内総合型地域スポーツクラブとの連携のもと検討を進めます。		

## 平成30年度 事業評価シート

5-③

<b>事業名</b>	スポーツにかかわる人材育成とスポーツをささえる地域づくり（ラグビー競技普及啓発）	<b>担当課</b>	スポーツ推進課
------------	--	------------	---------

<b>当初目標</b>	(1) スポーツ指導者へのラグビー競技（タグ・タッチラグビー含む）指導講習の実施【2回】 (2) 児童・生徒を中心としたラグビー競技（タグ・タッチラグビー含む）体験事業の実施【5回】		
<b>具体的な取組</b>	<b>実施状況</b>	<b>事業費</b> (千円)	
	小・中学校教員対象のラグビー指導講習	0	
	小学校児童・高校生徒・一般・職員対象のラグビー体験事業	0	
<b>目標の達成状況</b>	ラグビーワールドカップ日本開催等に向け普及啓発事業を積極展開しました。学校現場等から好評を受け、当初目標を大幅に上回って実施し、競技の定着に一定程度の役割を果たしました。 (1) スポーツ指導者への講習【2回】 小・中学校教員へのタグラグビー指導講習2回 (2) 児童・生徒を中心とした体験事業【29回】 小学校児童・高校生徒へのタグラグビー体験事業27回 職員対象のタグラグビー体験事業1回 一般対象のタッチラグビー体験事業1回		

<b>総合評価</b>	<b>A</b>
-------------	----------

<b>今後の課題等</b>	次年度はラグビーワールドカップ開催年度となるため、引続きの普及啓発事業が求められるほか、大会後も理解と関心が継続するよう、競技の定着を図る必要があります。				
<b>上田市教育行政評価懇話会</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%; text-align: center;"><b>委員からの意見</b></td> <td>                             ラグビーワールドカップ日本開催等に向けた普及事業として、児童・生徒を中心とした体験事業が活発に行われ、競技への関心の高まり、競技そのものの定着に結び付いたことを評価します。タグラグビー体験などのラグビーワールドカップに関連した普及啓発事業により、競技への理解に加え、菅平高原のブランド力をはじめ上田市の魅力を再認識する機会にもなったと考えます。今後も学校等の理解と協力を得ながら、このような取組が一定程度継続するよう努めることを期待します。                         </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;"><b>意見に対する考え方</b></td> <td>                             ラグビーワールドカップ日本開催に当たり、地域での競技に対する理解と浸透、底辺の拡大、また更なる定着に向け、交流文化スポーツ課や学校教育課などの関係部局と引続き連携しながら、今後も普及啓発事業に取り組んでいきます。                         </td> </tr> </table>	<b>委員からの意見</b>	ラグビーワールドカップ日本開催等に向けた普及事業として、児童・生徒を中心とした体験事業が活発に行われ、競技への関心の高まり、競技そのものの定着に結び付いたことを評価します。タグラグビー体験などのラグビーワールドカップに関連した普及啓発事業により、競技への理解に加え、菅平高原のブランド力をはじめ上田市の魅力を再認識する機会にもなったと考えます。今後も学校等の理解と協力を得ながら、このような取組が一定程度継続するよう努めることを期待します。	<b>意見に対する考え方</b>	ラグビーワールドカップ日本開催に当たり、地域での競技に対する理解と浸透、底辺の拡大、また更なる定着に向け、交流文化スポーツ課や学校教育課などの関係部局と引続き連携しながら、今後も普及啓発事業に取り組んでいきます。
<b>委員からの意見</b>	ラグビーワールドカップ日本開催等に向けた普及事業として、児童・生徒を中心とした体験事業が活発に行われ、競技への関心の高まり、競技そのものの定着に結び付いたことを評価します。タグラグビー体験などのラグビーワールドカップに関連した普及啓発事業により、競技への理解に加え、菅平高原のブランド力をはじめ上田市の魅力を再認識する機会にもなったと考えます。今後も学校等の理解と協力を得ながら、このような取組が一定程度継続するよう努めることを期待します。				
<b>意見に対する考え方</b>	ラグビーワールドカップ日本開催に当たり、地域での競技に対する理解と浸透、底辺の拡大、また更なる定着に向け、交流文化スポーツ課や学校教育課などの関係部局と引続き連携しながら、今後も普及啓発事業に取り組んでいきます。				
<b>今後の方針等</b>	ワールドカップ開催のほか、イタリアナショナルチームによる上田市でのトレーニングキャンプ（2年目）も踏まえ、小中学校等を中心に体験事業や指導講習を引続き実施します。また、競技の一層の普及のため小学校への用具の配布も併せて行います。				